

【別紙様式Ⅰ】 令和5年度 学校評価報告書				学校名 戸室小学校
厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		校長名 高峰 裕子
学校教育目標		学校経営の方針		
「夢に向かって共に学び 心豊かにたくましく生きる 戸室の子」 ○思いやりのある子に育てます (相互尊重・共生) ○目標に向けて、ねばり強く考え、学習や仕事に励む子どもに育てます (知性・勤勉) ○地域を大切にし、地域の人々に学ぶ子どもに育てます (地域愛) ○進んであいさつができる子どもに育てます (礼儀) ○体を鍛え、健康・安全を大切にすると子どもに育てます (体力・健康)		① 国・県・市の方針から ○教育基本法、学校教育法及び学習指導要領に掲げられている目標、神奈川県教育委員会が策定した「神奈川教育ビジョン」、厚木市教育委員会の基本目標「挑戦」「共生」「創造」を達成することをめざし、全ての教育活動を展開します。 ○「生きる力」の理念を具体化し、持続可能な社会の創り手として新しい時代に求められる資質や能力の育成をめざします。 ①知:確かな学力 ②徳:豊かな心 ③体:健やかな体 ② 学校教育目標の具現化に向けて、「夢・学び力」「社会力」「健康力」を育成する視点で計画的・組織的に教育活動の質の向上を図り、一人一人を大切にするインクルーシブな学校づくりをめざします。 「夢・学び力」では、一人一人の児童が目標に向けて、自分の持つ資質や能力を確実に伸ばしていくことをめざします。 「社会力」では、様々な能力や適性、家庭や国籍等の背景の異なる児童が、学校という集団生活の中で実践的・協働的な力を伸ばし、地域や人とのつながりの中で成し遂げる喜びを実感できる学びをめざします。 「健康力」では、心身ともに健康で安心して生活できることを基盤とした学校・学年・学級づくりをめざします。		
今年度の重点目標				
○学習意欲を高める学校づくり 基礎基本の定着 ICTの活用 学びの習慣化(家庭学習) ○持続可能な支援体制 インクルーシブ教育 異年齢集団の活動 ○安心・安全な学校づくり 心と体の健康 清掃活動 ○コミュニティ・スクール 社会に開かれた教育課程 ○働き方改革と教育力の向上 同僚性 主体的に学び続ける教師				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
安心・安全な学校・学級づくり	3	・感染症対策として、手洗い、うがい、黙食、換気を徹底した。新型コロナウイルス感染症が5類になって以降は引き続き手洗い、うがい、教室換気を続けながら状況に応じた対応を行った。 ・避難訓練・不審者対応訓練・交通安全教室を実施した。 ・不審者対応訓練や食物アレルギー発症に対応する学校事故対応訓練と研修会を実施した。 ・地域やPTAと連携を取りながら、登下校における安全指導を実施した。	・感染症対策を日常的に行った結果、児童の習慣化とともに児童の感染症対策への意識が向上した。 ・予告なしの避難訓練では課題が見られた。 ・警察に助言をいただきながら、児童と不審者対応訓練をし、退避行動の練習ができた。 ・食物アレルギー発症時の対応を中心に、エピペン講習会や行動訓練・心肺蘇生法訓練を行った。万が一を想定した実践的なスキルが身に付いた。 ・登校班については、保護者からの評価も高く、継続していく方向である。下校の仕方に課題があるので教員の見守りを行っていく。危険箇所についても継続的に調査をしていく。	・避難訓練では、個人の判断力・行動力が高まるよう、多様な場面設定での訓練を行う。 ・学校事故発生時の対応訓練や研修会は、適切な対応や連絡体制が確立するよう、毎年継続して行う。 ・登下校時における安全について、個々の意識を高められるような指導を継続して行う。

心豊かな人間性の育成 より良い生活や人間関係を築く態度	2・3	・児童会活動を通して、児童の自主的な活動として「戸室フェスティバル」「ハッピースマイルコンサート」や縦割り活動の「フレンドタイム」を実施した。	・戸室フェスティバルやハッピースマイルコンサートでは、自主的に生き生きと活動する姿が見られた。保護者からは児童の話から生き生きと活動していた様子がうかがえたとの高評価の意見が数多くだされた。 ・縦割り活動を昨年度より多くすることができた。	・代表委員会などで話し合う議題については、各学級でも事前に十分な話し合い活動ができるように、活動の場を設定する。 ・縦割り活動の機会を増やし、関わり合いの中で児童の主体性・社会性を育てていきたい。
学習意欲を高める授業づくり	1・2・3	・全員参加の授業づくりを目指し校内研修を進めた。 ・授業力向上を目指したメンター研修を実施した。 ・クロームブックの活用について研修をし、授業での積極的な活用に努めた。 ・指導に生かすため、全国学力・学習状況調査の問題を教員全員が解いた。	・感染症対策の緩和にともない、学び合いの授業も増えてきている。クロームブックを活用しての意見交換も定着してきている。 ・全員参加の指導法を教科指導に取り入れることができた。 ・メンター研修でクロームブックの活用法を研修し、教師・児童ともに活用する場面が増えた。	・自分の考えを図や文章にして説明する力や、お互いの意見をつなげ、まとめる力を身につけさせていく。 ・「分かる授業」づくりを目指し、今年度同様、同僚間で指導技術を高め合うため情報交換を行うメンター研修を継続して行っていく。 ・クロームブックの課題(活用法・ルール・情報モラルなど)の検討を続けていく。
基礎的・基本的学習内容の確実な習得と家庭学習の習慣化	1・3	・朝学習でドリル学習を行い、基礎・基本の習熟を図った。 ・算数・国語ウィークの実施をした。 ・漢字・ひらがなウィークを実施し、漢字の習得率の向上に努めた。 ・家庭学習の充実のため、家庭へのはたらきかけを積極的に行った。	・算数・国語ウィークとして、毎学期2週間ずつ、既習の内容をふりかえる学習を、全校で行うことにより、個々の学習の習熟に役立ち、集中して課題に取り組む姿勢が見られた。 ・クロームブックでeライブラリーを活用し、基礎・基本の定着を試みた。すぐに結果がわかるのでとてもよい。	・意欲的に取り組む姿が見られるが、基礎・基本の定着ができる取組をさらに検証していく。 ・漢字学習について、より定着できる学習法について検討し、家庭学習での取組をはたらきかけていく。 ・ICTを活用し、より分かる授業づくりを目指す。
支援教育体制を整備し、一人一人の児童に寄り添う指導の一層の充実(インクルーシブ教育)	1・2・3	・インクルーシブな学校環境を目指し、支援が必要な児童への対応を積極的かつ計画的に行った。 ・一貫性のある、チームとしての児童指導を実践した。 ・教育相談の充実を図り、迅速な対応に努めた。 ・家庭との連携を密に行った。 ・関係諸機関等との連絡調整を行った。 ・ピンクシャツデーの取組を行い、いじめを許さない学校風土づくりに努めた。	・児童指導担当を中心に、「じどうのやくそく」や学校生活のルールについて、常に全職員で共通理解をしながら児童指導に取り組んできたので、児童の規範意識を高めることができ、落ち着いた学校生活を送ることができている。 ・日頃の児童の様子をよく見ると共に、児童相談月間、教育相談、生活アンケート等様々な角度から様子を把握した。問題が生じた時には教育相談コーディネーターを中心に家庭との連携をはかり、必要に応じて教育相談を行い、早期の解決に努めた。場合によってはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにも対応してもらった。 ・支援が必要な児童については、ケース会議等を開き、共通理解をはかり、家庭や関係諸機関と連絡を取り合って迅速に対応することができた。 ・ピンクシャツデーの取組で、いじめに対する児童の心を育てるようにした。	・「じどうのやくそく」を教室掲示し、職員が共通理解のもと、全校で同じ指導ができるようにする。 ・児童指導について、共通理解をはかり、一貫した指導を続け、チームで迅速に対応する。 ・教育相談の体制をさらに整えて、保護者との相談を充実させる。 ・いじめについてのアンケートを実施し、いじめの防止にへと繋げていく。ピンクシャツデー等の取り組みで児童のいじめ防止の意識を高める。 ・支援が必要な児童については、家庭との連携、関係諸機関との連絡、調整を行う。 ・心の相談室(ほっとルーム)を充実させていく。

ゆとりと熱意に満ちた教師と教師集団(学校と家庭・地域の連携) 情報発信	1・2・3	・教師の指導力向上とチーム戸室としての連携に努めた。 ・保護者や地域との連携を図った。 ・HPや学校だよりの充実と緊急連絡の早期対応に努めた。	・校内研究では、児童の全員参加をめざした授業づくりの研究を行い、若手育成はもとより、全教員の授業力向上をはかる事ができた。 ・登下校などの安全面や児童の様々な活動に、地域や保護者が積極的に参加し、学校と地域との連携ができた。 ・学校だよりに、インクルーシブ教育の記事を毎掲載せるとともに、質問や感想を受け付ける工夫を施し、学校理解を促進させた。 ・緊急時の連絡メールは保護者への周知に活用することができた。	・教職員の指導力向上とチームワークの強化に向け、メンター研修を充実させ職員間の共通理解を進めていきたい。 ・職員の多忙状態をさらに改善するために、業務の効率化と簡素化を図り、自己研鑽の時間も確保できるようにしたい。 ・地域学校共同活動推進委員が配置されるため、学校運営協議会との協力をさらに強め、地域との交流を深めていきたい。 ・学校と保護者や地域との連携がより深まるよう、学校理解に向け、情報の発信に力を入れたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
1 安心安全な学校・学級づくり ・学校職員、地域の方々(愛の目・交通安全の会など)、保護者(PTA・委員会)様々な方の配慮により登下校の見守りができており、それが危険回避・不審者抑止になっていると思いました。すべてを取りまとめる学校としては時に把握や連絡などでご苦労もあると思いますが、おかげさまで安心安全が守られています。 2 心豊かな人間性の育成 より良い生活や人間関係を築く態度 ・コロナ5類に移行後の今年度、様々な学校学年クラス行事がより自然にできていたことと思います。規制の多かった数年間を乗り越え、児童にとってさらに自分で考えたり相手を理解し認めたりすることで前向きな学習に取り組めることと思います。 ・勉強ができるできない、テストの点が良い悪いということより大切な項目。「協調性、実践性、自主的、認め合う」ことの、社会力、生きる力だと思います。 3 学習意欲を高める授業づくり ・学力ステップアップ支援員、学習ボランティアを活用して指導の充実を図る項目が前年度から大幅にアップしていることは評価します。 ・教材研究・発問や板書の工夫、学習形態等の授業の基本に加え、外部講師の招聘や体験的学習、さらにデジタル機器の効果的な活用等、十分な時間の保証もない中で授業づくりは大変でもありかつ楽しみでもあると思います。年ごとに児童を取り巻く実態に即してポイントを絞って実践し、評価につながる満足感が得られると良いと思います。 4 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と家庭学習の習慣化 ・保護者の期待と児童の感覚の差はほぼ一定。学習の定着や習慣化は、やればできるようになる、わかるようになることが一番だと思いますが、それが理解、意識できるためにはどうするか？個人的にはある一定レベルを下回る児童を減らす事、基礎を固めることが平均レベルを上回る児童にとっても重要かと思います。 5 支援教育体制の整備と一人一人に寄り添う指導の一層の充実 ・校長先生をはじめ、教職員の皆さんの支援教育への取組にいつも敬意を持っている。保護者の声にも「トムクルーシブ通信」への評価があったが、研究が終了しても「人権教育」の一つの柱としてぜひ継続させていただきたい。 6 ゆとりと熱意に満ちた教師と教師集団 ・新しい項目、「日頃から相談しやすい雰囲気がある」を入れたことはとても良いと思います。ゆとりと熱意、両方を持って子どもたちの指導に当たってほしいです。 7 情報発信 ・学校だよりはA4刷りで読みやすいと感じています。また、連絡メールも必要に応じて適切に発信されていると思っています。(保護者からの要望に)子どもの日頃の様子を動画で配信をとの声があったが、個人情報に係る部分があり、どのように拡散・乱用されるか不安を感じます。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
全ての子どもたちに必要な学びが行き届くよう、一人一人を大切にした教育を学校全体で取り組んできた。今年度の学校経営における重点目標は、概ね達成できたと判断している。次年度は、さらにより良い学校づくりをめざし、学校評価をもとに教育活動を再検討し全教職員で取り組んでいく。 ・支援教育の充実 ・インクルーシブ教育推進のための校内支援体制の継続 ・校内研究(学び合いのある授業づくり～全員参加をめざして～)の成果を生かした学習指導 ・交通安全、けがの予防等安全教育の充実 ・学習意欲を高める授業づくりと学力向上の一層の推進 ・人材育成				